

令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

富山県

（地域における現状・課題）

- ・令和3年度から取組を進めている4市町（高岡市・黒部市・南砺市・朝日町）に加え、新たに4市（富山市・射水市・滑川市・小矢部市）で実践研究を行う。
- ・平成13年度から「スポーツエキスパート派遣事業（市町村補助）」を実施し、平成30年度から「部活動指導員配置事業（国庫補助）」を活用している。
- ・課題（指導者の質向上と人材の確保、費用負担の増加等）

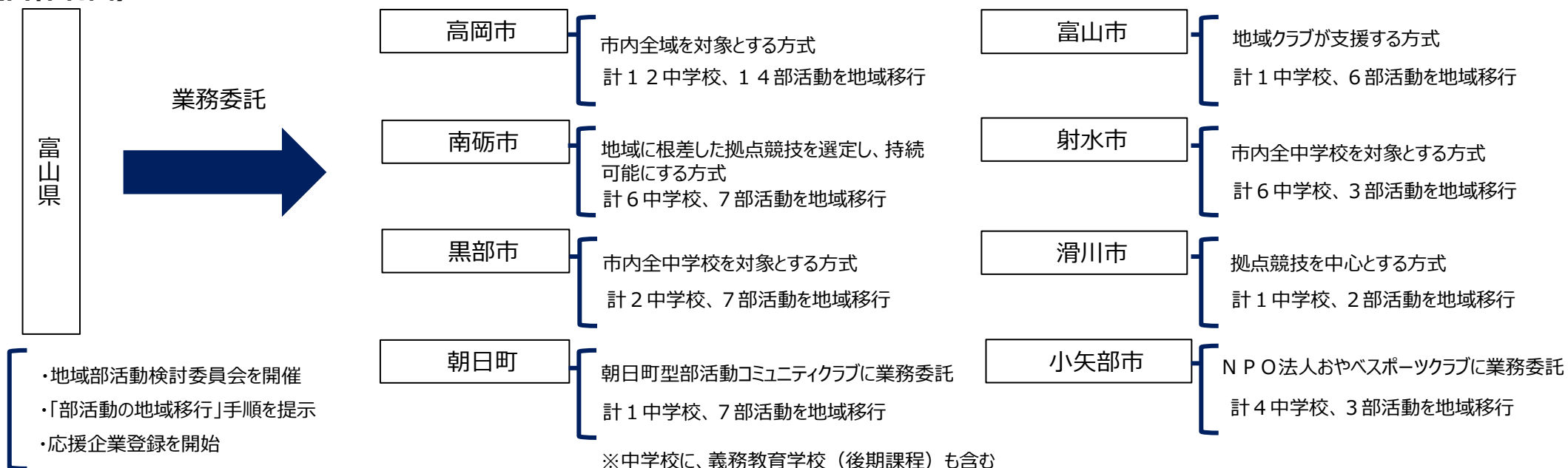
（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

- ・地域部活動検討委員会（年3回実施：5月、10月、2月） 【委員】学識経験者、経済同友会、民間スポーツクラブ、高体連、中体連 等
- ・第1回地域部活動検討委員会（部活動指導者研修会、応援企業の登録方法、今後の部活動の地域移行に向けた課題対策及び方向性 等）
- ・第2回地域部活動検討委員会（実践研究中間報告、「部活動の地域移行」手順を県下15市町村担当者に提示し、説明 等）
- ・第3回地域部活動検討委員会（実践研究最終報告、「応援企業登録制度」について 等）

（実践研究の成果）

- ・8市町の実践研究から得た課題や検証を県内全15市町村で情報共有し、部活動の地域移行への意識が浸透した。
- ・部活動の応援企業登録（指導者確保や財政支援等）を開始した。

（運営体制図）



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

富山県朝日町

（地域における現状・課題）

近年、学校部活動を取り巻く環境が厳しさを増しており、生徒の減少に伴う部活動数の減少、学校の縮小化に伴う教員の負担増加、さらに教員の人事異動により、生徒にとって望ましい指導を継続して受けられないといった多くの課題がある。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

町体育協会が中心となり、競技団体やスポーツ少年団、文化芸術関係者や学校関係者等で組織する持続可能な部活動と教員の負担軽減の両方を実現できるようにするための仕組みとして、「朝日町型部活動コミュニティクラブ」を設立し、学校部活動の一部を地域人材による地域クラブ活動として移行し実施としている。

運営主体：

朝日町型部活動コミュニティクラブ実行委員会/富山県朝日町教育委員会

活動場所：町内体育施設、武道館

指導者：地域指導者、兼職兼業教諭

移動手段：徒歩、自転車、スクールバス

責任主体：

朝日町型部活動コミュニティクラブ実行委員会/富山県朝日町教育委員会

活動種目：バスケットボール 柔道 陸上競技 卓球 剣道

ソフトテニス バレーボール

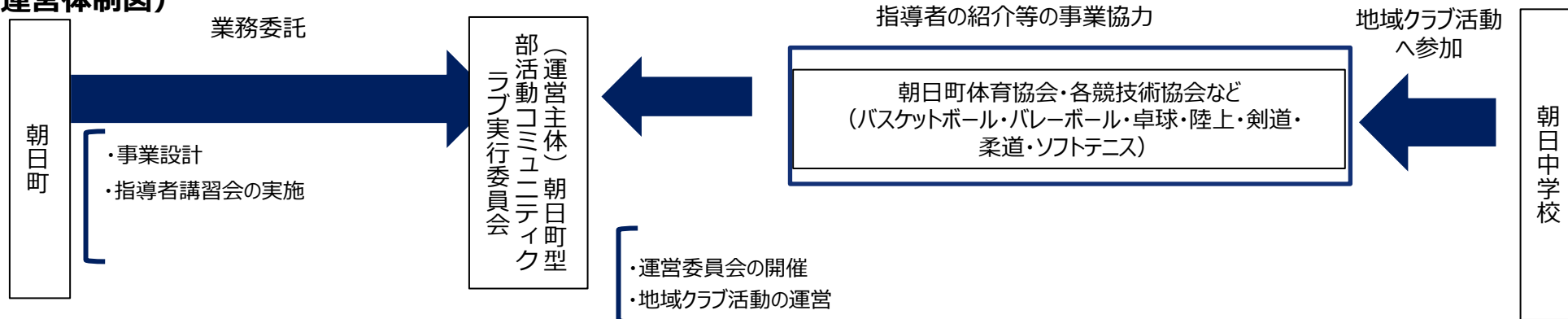
会費等：負担なし

保険：800円（スポーツ安全保険）

（実践研究の成果）

- ・地域人材の活用により、専門性の高い指導が受けられるようになり、生徒の活動意欲が高まると共に技術及び競技力の向上等が図られたこと。
- ・小学校でのスポーツ少年団等から中学校の部活動へと計画的・継続的 な一貫した指導が受けられるようになったこと。
- ・「学校部活動」の指導者（部活動指導員・スポーツエキスパート等が、「地域クラブ活動」の指導を行っているため、指導の一貫性が担保されていること。
- ・教員がこれまで「学校部活動」指導にあてていた放課後の時間を 教材 研究や採点、生徒指導や進路指導等さまざまな業務にあてられるようになったこと。
→教員の在校時間が削減され、身体的・精神的な負担が減少したこと。

（運営体制図）



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

富山県射水市

（地域における現状・課題）

- ・ 教師が専門外の種目を指導している部活動があり、成果を求められることなどが精神的にも負担となっている。また、生徒にとっては専門的指導が受けられないことにより意欲が高まらない。
- ・ 教師の学校や学級運営、授業準備や研修等の本来の業務にあたる時間が圧迫されたり、休日の指導、大会引率、大会運営に多くの時間を取られたりしている。
- ・ 生徒数の減少に伴い、学校単位でチームを組めない競技種目が増加し、希望する部活動の選択が困難になると予想される。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：射水市教育委員会

活動場所：市内中学校体育館、公共スポーツ施設

指導者：射水市バスケットボール協会、射水市剣道連盟、射水市柔道連盟

移動手段：保護者送迎

責任主体：射水市教育委員会

活動種目：バスケットボール、剣道、柔道

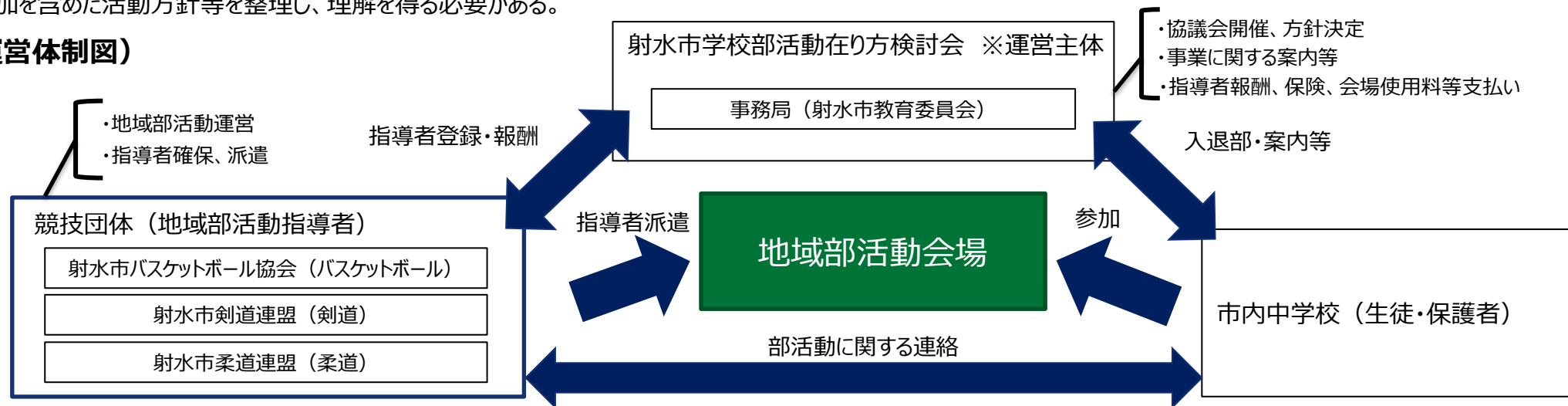
会費等：なし

保険：市で加入（傷害、賠償責任、突然死葬祭費用保険）

（実践研究の成果）

- ・ 専門的な指導が受けれるなど、生徒の約7割、保護者の半数以上が、「地域部活動に満足している。」と回答し、部活動顧問の約8割が「負担軽減につながった。」と回答していることから、有効的な地域部活動を実施することができたと考えている。
- ・ 「学校部活動」「地域部活動」「地域のスポーツクラブ」ともに所属している生徒の中で、大会参加等に不安や困惑を感じている生徒や保護者が複数いることから大会参加を含めた活動方針等を整理し、理解を得る必要がある。

（運営体制図）



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

富山県黒部市

（地域における現状・課題）

これまで、中学校部活動は、生徒の教育に大きな役割を果たしてきたが、一方でより専門的な指導を求める生徒のニーズへの対応、生徒数減少による部活動存続の危惧、顧問教員の業務負担の増加など、学校部活動の継続について様々な課題を抱えている。生徒たちがスポーツに継続して親しむことができる機会を確保するために、持続可能な体制づくりに取り組む必要がある。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：黒部市教育委員会

活動場所：明峰中学校、清明中学校、市内体育施設 等

指導者：各競技協会からの派遣指導者

移動手段：徒歩、自転車、保護者送迎 等

責任主体：黒部市教育委員会

活動種目：バレーボール、バスケットボール、アーチェリー、陸上、柔道、剣道

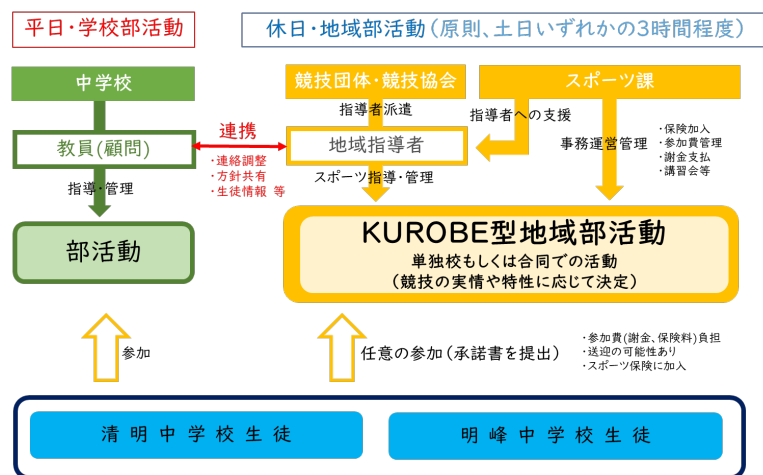
会費等：6,300円/年（1・2年生）、1,500円/年（3年生）

保険：800円/年（スポーツ安全保険）

（実践研究の成果）

- ・10部活動にて実践研究を実施（生徒の満足度、保護者の理解度等について、アンケート結果では評価する回答が多数を占める）
- ・令和4年度より、受益者負担として参加者から負担金を徴収（負担に対する理解度について、アンケート結果では程度に差はあるものの、理解する回答が多数）
- ・競技協会、教員等、各関係者（あり方検討会）と協議検討を進め、令和5年度対象競技の拡大に向け、体制を整備
- ・部活動顧問教員の休日部活動にかかる時間外勤務時間の圧縮 など

（運営体制図）



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

富山県小矢部市

（地域における現状・課題）

生徒数の減少が進む中、部員数の減により、団体競技においてはチーム編成ができない状況となり、廃止となる部活動が増えてきている。個人競技においても、練習相手が確保できないため、部活動として成立しない状況が生じてきている。加えて、大会での上位入賞や、より高度な技術習得を求める生徒がいる一方、単に仲間とともに楽しく体を動かし運動したいと考える生徒や運動に関心のない生徒などが増えており、二極化が進んでいる。教員についても、社会環境が変化していく中で、生徒指導や保護者及び地域からの多様な要望に応えるため、部活動への対応については時間外勤務で対応せざるを得ないケースが多い。近年は、教員数も減ってきており、ほとんどの部活動において競技経験のない教員が部活動の顧問にならざるを得ない状態となっている。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：NPO法人おやべスポーツクラブ

活動場所：ホッケー場、武道館、学校グラウンド

指導者：県(市)ホッケー協会、市柔道連盟、市野球連盟

移動手段：徒歩、自転車、保護者による送迎

責任主体：市教育委員会/NPO法人おやべスポーツクラブ

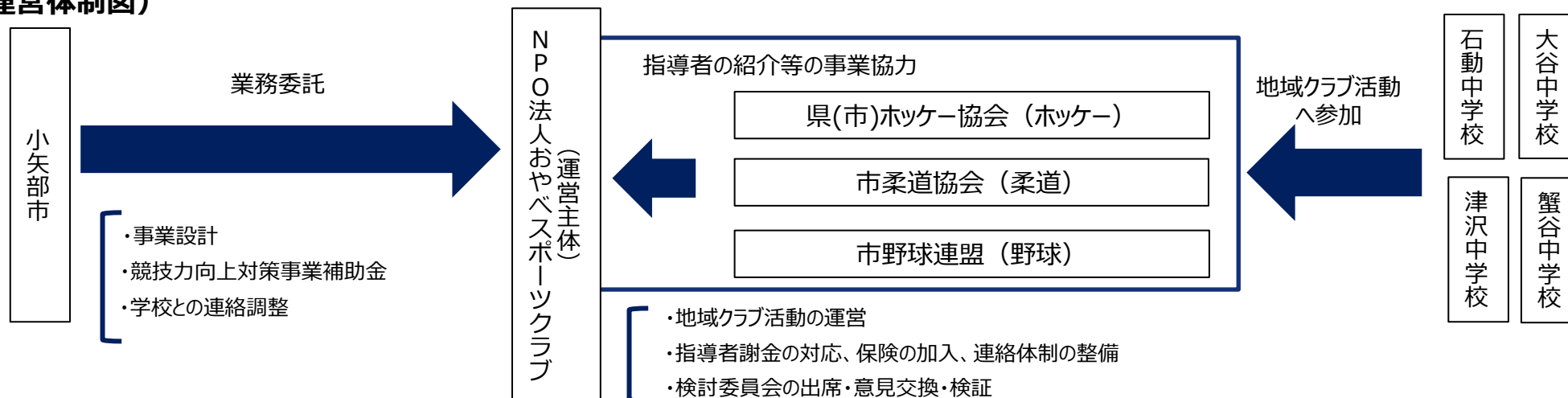
活動種目：ホッケー、柔道、野球

保険：800円（スポーツ安全保険）

（実践研究の成果）

- ①対象部活動の顧問教員の負担軽減を図る。→ 全体的に時間外が6割以上の削減された。
- ②関係者（生徒、保護者、教員）の満足度向上を図る。→ 総合的な満足度60%以上が達成できた。
- ③部活動加入生徒の参加率向上を図る。→ ほとんどの競技について参加率が70%以上となった。

（運営体制図）



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

富山県高岡市

（地域における現状・課題）

令和4年度現在、11校の中学校と1校の義務教育学校の計12校を設置している。うち、小規模校8校、適正規模校3校、大規模校1校である。ほとんどの中学校において、長期にわたって生徒数の減少が続いており、学校の小規模化、教員数の減少、設置部活動数の減少傾向にある。10年間で中学校の生徒数は約800人減少し、4分の3の規模となっている。

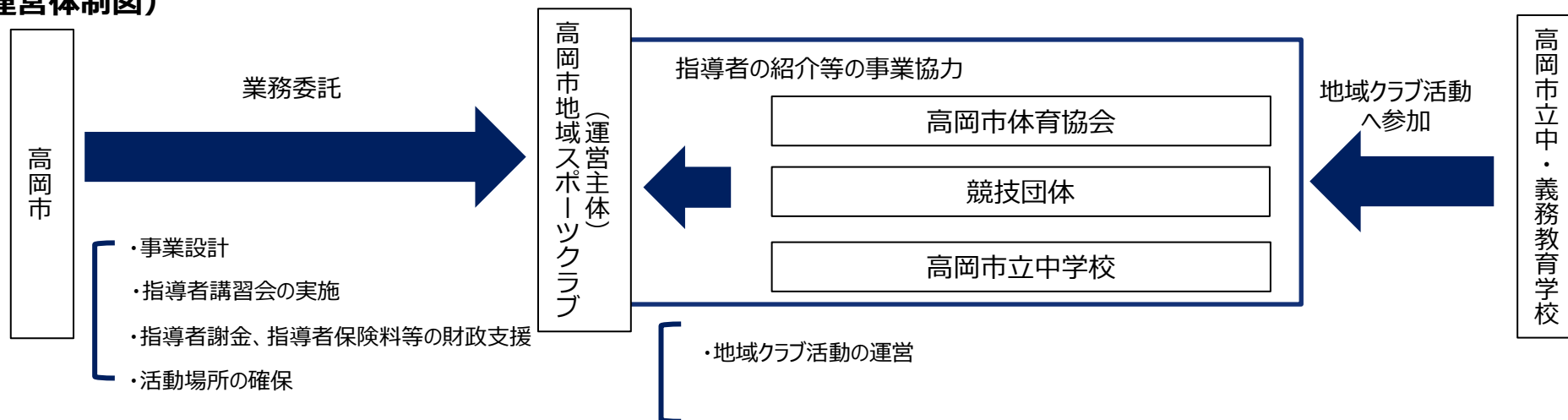
（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：高岡市地域スポーツクラブ / 高岡市体育協会	責任主体：高岡市地域スポーツクラブ / 高岡市教育委員会 / 高岡市体育協会
活動場所：高岡市立各中学校、県営高岡武道館	活動種目：軟式野球、バドミントン、バレーボール、ソフトテニス、陸上競技、バスケットボール(男・女)
指導者：地域指導者、	サッカー、卓球、水泳、ハンドボール、剣道、柔道、相撲、ソフトボール
移動手段：徒歩、自転車、保護者送迎	会費等：競技ごとに異なる
	保険：800円（スポーツ安全保険）

（実践研究の成果）

- 【生徒】・専門的な指導者からの指導を受けることで、技能の向上、競技に対する興味・関心の向上がみられた。
- ・当該部活動がない学校の生徒、部員が少ない学校の生徒にとって、充実した練習ができる。また、他校の生徒と活動することがよい刺激となる。
- 【教員】・休日の部活動の回数が少なくなり、休日出勤の回数が減った。
- ・教材研究など、他の業務に費やす時間が増えた。

（運営体制図）



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

富山県富山市

（地域における現状・課題）

富山市教育委員会では、これまで、協力いただける団体や活用が可能な施設などがある学校に対し、地域への移行に取り組むよう提案してきており、一部の学校においては、既に地域や競技団体の指導者による指導が行われている。富山市部活動ガイドラインを基に、各校でも部活動ガイドラインを作成し、生徒の健康・安全管理の充実及び教職員の働き方に変化はみられるが、地域部活動への移行に向けて取り組めていない学校、部活動が多いのが現状である。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：地域スポーツクラブ

活動場所：大沢野中学校、市営陸上競技場、近隣小学校体育館、県漕艇場

指導者：地域指導者

移動手段：徒歩、自転車、保護者送迎

責任主体：地域スポーツクラブ

活動種目：陸上競技、ソフトテニス、卓球、ボート、剣道、スキー

会費等：5,000円～12,000円（クラブ毎に異なる）

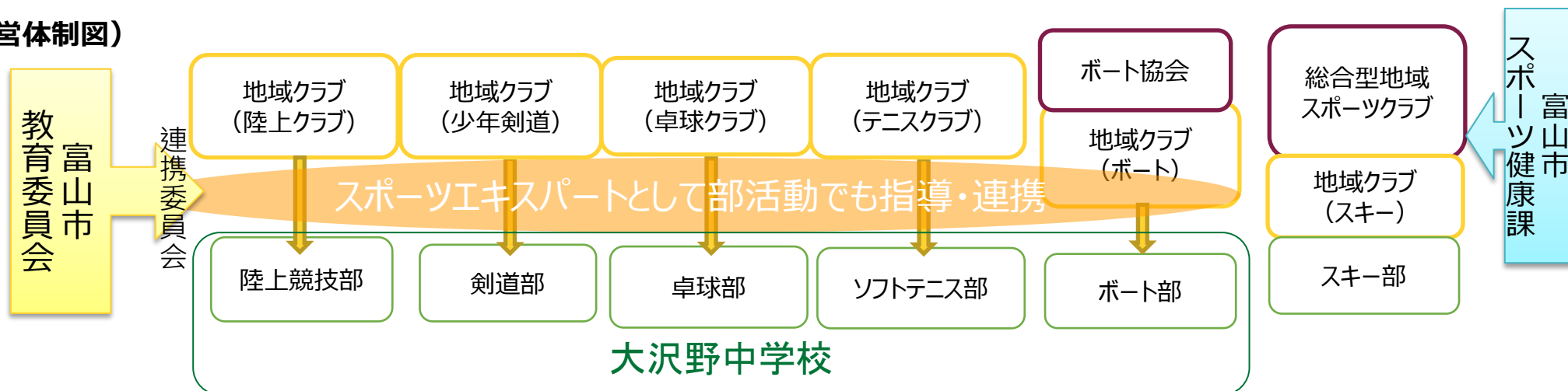
保険：800円（スポーツ安全保険）

（実践研究の成果）

生徒のアンケートによると、部活動顧問以外の指導者がいる部活動に所属する生徒の意見として「具体的に指導してもらえて、効果がある」「指導が専門的で、技術向上につながる」という意見が多く見られ、多くの生徒が効果を感じていた。

保護者のアンケートの自由記述の意見の中には、「先生の負担を減らすためには、地域移行を進めたらよい」、「専門的指導が受けられるのはよい」という声が複数見られた。

（運営体制図）



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

富山県滑川市

（地域における現状・課題）

滑川市内2つの中学校に全28の運動部が設置されており、15部でスポーツエキスパートや部活動指導員が指導に携わっており、全国大会やブロック大会等に出場するなど成果を出してきた。一方で、年々生徒数の減少や在籍生徒の市内外のクラブチーム等への加入により、各部における部員数が減少しており、部によっては、単独で大会に出場することが難しい状況にある。また、生徒数減少に伴う教員数の削減により、顧問の配置も難しい状況になっている。

市内には総合型スポーツクラブが1つあり、幅広い年齢層を対象にした教室等を開設している。しかし、年々加入者の減少が続いており、各教室の指導者の確保についても年々難しくなっている。市内各競技団体等においては、スポーツ少年団等の既存のチームの指導のため、部活動の地域移行に伴う新たな体制づくりが難しかったり、指導者の確保が難しい状況である。

以上のこと等を踏まえ、子どもたちが自主的・自発的に継続してスポーツに親しむことができる環境・機会の確保・充実のため、地域で支え、育てる滑川市型の地域部活動のあり方を検討するとともに、教員の働き方改革を踏まえた部活動における指導負担等の軽減を図ることを目指すこととした。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：滑川市教育委員会、バドミントン協会
指導者：地域指導者

責任主体：滑川市教育委員会
移動手段：徒歩、自転車、保護者送迎

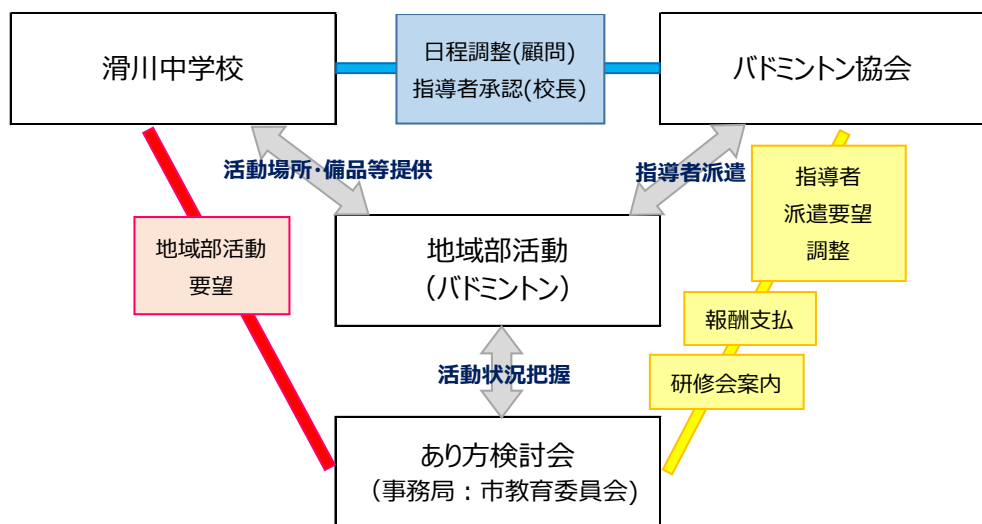
活動場所：滑川市立滑川中学校
会費等：0円

活動種目：バドミントン
保険：800円（スポーツ安全保険）

（実践研究の成果）

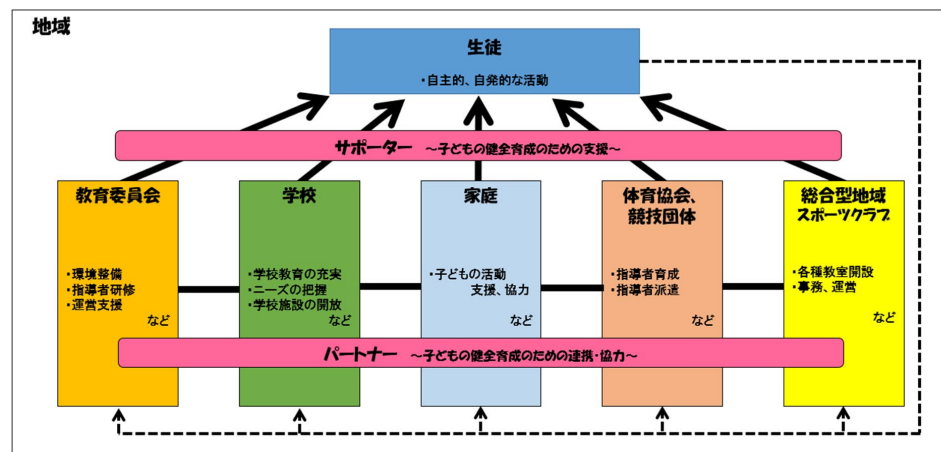
- ＜目標① 地域移行に向けた地域運動部活動のあり方の検討、検証＞ → 検証方法：生徒、保護者、指導者、担当顧問へのアンケート調査・ヒアリング調査 ⇒ **結果：生徒82%、保護者86% 指導者100%、顧問100%**
- ＜目標② 地域移行に向けた拠点校での地域指導者による指導の実施＞ → 達成目標：地域部活動の満足度「良い」・「やや良い」の合計が60%以上
- ＜目標③ 地域移行に向けた地域への理解促進＞ → 検証方法：生徒、保護者へのアンケート調査 ⇒ **結果：78%**
達成目標：活動費の負担について、「負担可能」の割合が60%以上
- ＜目標④ 教員の休日の部活動指導時間の削減＞ → 検証方法：担当顧問の勤務時間調査 ⇒ **結果：0時間（8月以降。中体連主催の大会を除く）**
達成目標：休日の部活動指導時間0時間（中体連主催の大会を除く）

（運営体制図）



“地域で支え、育てる”滑川市型地域部活動 グランドデザイン2022

～自主的・自発的に継続してスポーツ・文化的活動等に親しむことができる環境・機会の確保・充実～



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

富山県南砺市

（地域における現状・課題）

- ・各学校の教員数に対し設置運動部活動数が多く、一人顧問や一人の教員が複数の顧問を担当するケースがあり、顧問担当教員の負担が大きく、超過勤務の原因の一つとなっている。
- ・顧問を担う種目を経験したことのある教員が、市立中・義務教育学校全体の30%程度にとどまっており、質の高い専門的な指導が行いにくい状況となっている。
- ・指導者の高齢化により、近い将来、持続可能な指導体制を維持することが困難になることが危惧される。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：南砺市教育委員会

活動場所：中学校体育館、社会体育館、屋内グラウンド

指導者：地域指導者

移動手段：徒歩、自転車、保護者送迎

責任主体：井波剣友会、井口バドミントンクラブ、城中ソフトテニス部地域部活動、ダイヤモンドゆかい、南砺市なぎなた連盟、福光卓友会

活動種目：剣道、バドミントン、ソフトテニス、ソフトボール、なぎなた、卓球

会費等：競技団体が設定

保険：1,850円（指導者保険）

（実践研究の成果）

- ・休日の部活動の負担軽減を実感する顧問教員の割合は80%には達しなかったが、66.7%の教師が地域移行によって、休日の部活動の負担軽減を実感している。指導者の確保が進めば、今後負担軽減を感じる顧問教員の割合は増えていくものとする。
- ・地域指導者が大会引率を担っている種目がいくつかあった。今後、教員が関与しない仕組みづくりを構築するうえで、よい実践となった。

（運営体制図）

